



2022年
新年のご挨拶

元日の天気におもうこと

新しき 年の始めの 初春の 今日降る雪の いやしけ吉事

(あらたしき としのはじめの はつはるの きょうふるゆきの いやしけよごと)

新年あけましておめでとうございます。こちらは、大友家持(やかもち)により詠まれた万葉集の最後をかざる歌です。意味は、新年元日に降る雪のように良いことが降り積もってほしいというものです。今年、皆様に良いことがたくさん訪れる年であることを願って、この歌を紹介させていただきました。

雪と言えば、今冬はラニーニャ現象が発生しているため、大雪への警戒が必要とされています。ラニーニャ現象とは、南米付近からの西向きの風が暖かい海水をインドネシア周辺に運ぶために南米付近の海水温が低くなる現象です。これにより、インドネシア周辺に暖かい海水が集まり、上昇気流と積乱雲を発生させ、偏西風を北に押し上げ、偏西風が蛇行し、結果として、シベリアからの寒気が日本に到達し、大雪をもたらせます。南米の海水温度が低いと、日本で大雪が降るとは大変興味深いです。このような関係は、昨年ノーベル物理学賞を受賞された真鍋先生が研究された大気海洋結合モデルで説明されます。

天気予報において、コンピュータ技術の発展は欠かせないものとなりました。最近、AIやセンサ技術が発達したことから、工学と他分野、例えば、医学、農学との連携研究が盛んです。また、教育学と工学、考古学と工学というように一見関係なさそうな分野が連携している研究もあります。このような学術領域を超えた研究を推進するためには、関わる人間が互いの分野に興味を持つことが必要です。私が以前関わった研究プロジェクトでは、大学に所属する工学、獣医学、医学の研究者、企業の開発設計担当者からマーケティング担当者まで、様々な経歴の方が参加しました。そのプロジェクトは、普段接しない方と開発を進めることが非常に刺激的な経験となりました。また、私は工学の研究者としてだけでなく、ユーザの視点として幼い子供を持つ父親としての経験も役に立ちました。研究や開発を進めるには、普段勉強していることだけでなく、いろいろな経験が役に立つと改めて考えさせられました。

この電子情報通信学会のLINEに登録してくれている皆さんは、工学に興味があるのだと思います。その興味はぜひ持ち続けてほしいと思いますが、それ以外のことや、苦手と思うことにも視点を変えて、目を向けてもらえるとありがたいです。あなたのちょっとしたどんな経験も将来活かされるものだと思います。

新年を迎え、そちらは雪でしょうか、それとも晴天でしょうか。どちらにしても、元日が晴天であることは単純にうれしいですし、雪でも良いことが起きる前触れかもしれません。新たな気持ちで参りましょう。

(鳥取大学 笹岡直人)